



門 13
號 3363
卷 7

礼

礼

三言三句

口口

南無阿弥陀仏

礼



目錄

名本行傳全集卷之七

本大學出版部

- 一 三言三句
- 一 三言三句
- 一 三言三句

いづれとてはの附午の
むらひの件の一海成る
上りまじと西宮のふのか
の西之殿も一宮中あるを
をがいに一宮子の目録を
りつゝも人に海をよ
付る所さて一と山に都を

はらり武蔵小町にさるる
命とが一とて海一と
迎へら比良寺の山に都
の振立ありとて一とて
とて一人の海一とて
何れとてあに一人も
はらりかげとて一とて

さあが亭に〜月見の會に

あや〜

〜伴は〜

あこ〜お〜

河子と〜

部と〜

〜

忍と〜

あ〜

の〜

腹〜

〜

一〜

〜

さあが亭に〜月見の會に

あや〜

〜伴は〜

あこ〜お〜

河子と〜

部と〜

〜

忍と〜

あ〜

の〜

腹〜

〜

一〜

〜

おしよの山に仰ぐ一牛の恥辱
おしよの山に仰ぐ一牛の恥辱
おしよの山に仰ぐ一牛の恥辱
おしよの山に仰ぐ一牛の恥辱
おしよの山に仰ぐ一牛の恥辱
おしよの山に仰ぐ一牛の恥辱
おしよの山に仰ぐ一牛の恥辱
おしよの山に仰ぐ一牛の恥辱
おしよの山に仰ぐ一牛の恥辱
おしよの山に仰ぐ一牛の恥辱

おしよの山に仰ぐ一牛の恥辱
おしよの山に仰ぐ一牛の恥辱
おしよの山に仰ぐ一牛の恥辱
おしよの山に仰ぐ一牛の恥辱
おしよの山に仰ぐ一牛の恥辱
おしよの山に仰ぐ一牛の恥辱
おしよの山に仰ぐ一牛の恥辱
おしよの山に仰ぐ一牛の恥辱
おしよの山に仰ぐ一牛の恥辱
おしよの山に仰ぐ一牛の恥辱



下子き人の情と人質と色
くはらふと形にあらう地
逝きりのあふんといふの
悪にいしし御中入魂の
まの事な是といふあふん
もあらし強きやせんひさ
ふはらふとやあふん

人質

くはらふと形にあらう地
色と男とやせんひさ
血初とやあふん
あはれあはれとや
くはらふとやあふん
いししとやあふん

徳^{とく}り午^む〜ゆ〜送^{おくり}〜
そ^その^の文^{ぶん}小^こい〜

以^い紙^し入^い紙^しを^を度^ど
伴^{ばん}在^{ざい}送^{そう}電^{でん}〜
某^{その}由^ゆ小^こ金^{かね}〜
と^との^の伴^{ばん}乃^のゆ〜
出^い〜

牛^{うし}馬^ばの^の文^{ぶん}〜
之^{これ}切^{きり}〜
扱^{あつか}中^{ちゆう}〜
味^{あじ}着^{ちやく}〜
乃^{この}由^ゆ〜
之^{これ}由^ゆ〜
乃^{この}由^ゆ〜

と田中たなかの系けい小公せうこうと付つ
事ことの事ことの事ことの事こと
物ものの事ことの事ことの事ことの事こと
山やまの事ことの事ことの事ことの事こと
の事ことの事ことの事ことの事こと
せんせん別べつの事ことの事ことの事ことの事こと
いいの事ことの事ことの事ことの事こと

んんの事ことの事ことの事ことの事こと
文ぶんの事ことの事ことの事ことの事こと
山やまの事ことの事ことの事ことの事こと
ああの事ことの事ことの事ことの事こと
みみの事ことの事ことの事ことの事こと
いいの事ことの事ことの事ことの事こと
るるの事ことの事ことの事ことの事こと

氣とーあいて心許あ

伴赤坂のーのーあ

字のどーおのー

かー入ー介抱ー水と

りーあぶらーとーらー

ーるねどーやー字の

何人さふ赤白ー甲

あ中があまーあさふあ

とP志ー親の長き

と何人てこそあれ海州

の名人あれがあ及のあふ

うらーあ百回

ーあーあ

ーあーあ

氣

伴赤坂

字

か入

りあ

るね

何人

あ中

とP

と何

の名

うら

あ

あ

心許

の

の

抱

と

の

白

あ

の

州

の

回

あ

あ


~~~~~



電の世に

蓮子

名木石朽池大全巻七終

南之

南無阿彌陀佛

南無阿彌陀佛

与



